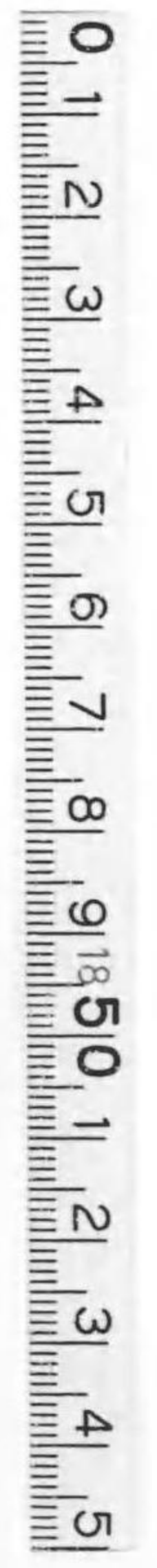


光録山回生

特208  
293



始



特 208  
293



成田山

照定



## 序

當山御本尊大聖不動明王は、弘仁元年 嵯峨天皇の勅願に依り、玉體安穩國家鎮護の爲め、宗祖弘法大師一刀三禮敬刻開眼、洛西高雄山神護國祚真言寺の護摩堂に安置せられたる靈像なり。それより降りて凡そ百三十年 朱雀天皇の天慶二年、平將門關東の地に叛するや、天皇之が鎮定の師を出さると共に、廣澤遍照寺の寛朝僧正當山開山に天國の寶劍を授け給ひ、朝敵降伏の護摩奉修の密勅を下さる。僧正大命を畏み、賜ふ所の寶劍と、前記高雄山泰安の不動尊像とを捧持して海路遙かに東國に下り、下總公津ヶ原に安置して修法せしが、靈驗顯著恰も護摩結願の日將門誅に伏す。是れ偏に明王の神力なりと、高雄山の舊縁と、皇師新に大勝せる近因とに取りて寺號を神護新勝寺と賜ふ。

由緒既に正明なれば靈驗亦日に新に、障害調伏、繫縛解脱、眞に鎮護國家の靈場として法輪を千古に轉じ、信徒無慮數百萬を算す。斯くして外護篤信の淨志と、歷代山主の努力と相俟つて、堂塔輪奐の美備

り、更に中學校女學校、圖書館、幼稚園、學園、新更會等、所謂成田山六事業の完整は、聊か時代の進展に伴つて我國文化の向上と社會福祉の増進に寄與す。加之、當山本坊奥殿は、長くも前後二回、明治天皇の行在所となり、昭和八年文部大臣指定史蹟となる、宗門の光榮何か之に過ぎん。而して我等は今茲に當山開基一千年の靈辰を迎ふ。洵に千載の一遇なり。何人か滿腔報恩の誠を表せざらん。乃ち昭和十三年三月二十八日開白、四月二十八日中回向、五月二十八日結願の次



第を以て、前後六十二日間、御本尊開帳大法要を嚴修し、併せて信徒諸賢の絶大なる翼賛を仰ぎ、太子堂紀念堂並に祈念塔修法教師道場等の永久的紀念物を建造し、尚藥草園の創設、成田山史の編纂上梓等を決せり。本帖亦前記山史と共に、其紀念出版の一として之を江湖に頒ち、聊か報恩の微志を標せんとす。然れども紙數固より限りあり、僅に當山靈寶堂宇等の一斑を示すに過ぎずと雖も、又以て好箇の紀念たるに庶からん乎。本帖編輯に方り、撮録時を隔て、取捨衡を失し、不備或は尠からざらんも、是等是他日の補修を俟つて一層の完璧を期す。冀くは、本帖が如字千載一遇の佳辰紀念として、明王の靈光と共に、永く大方の清覽に適ひ、大に其威徳を讃仰し、益々群品の眞福を増進して愈々皇圖の永昌を扶翼し得ば、幸慶之に過ぐるなし。即ち蕪辭を陳ねて爾く卷頭に序す。

昭和十三年三月

成田山開基一千年祭事務局

### 成田山餘光 目次

題字(現藏荒木大僧正筆).....	一
序.....	三
目次.....	五
圖 版	
本尊舊跡 下總尼垂ヶ濱.....	七
同 不動塚.....	七
同 不動塚より御遷座の地.....	八
仁王門及本堂正面.....	八
仁王門篇額.....	九
本 堂.....	九
同 内 陣.....	九
三十六童子.....	一〇
水 行 場.....	一〇
鐘 樓.....	一一
三 重 塔.....	一一
一切經堂.....	一二
同 篇 額.....	一二
一切經轉輪藏.....	一二
額 堂.....	一三
同 毛 綱.....	一三
同 礎.....	一三
同 看 板.....	一四
光 明 堂.....	一四
同 篇 額.....	一四
聖德太子尊像.....	一四
奥 之 院.....	一五
吒枳尼天堂(出世稱荷).....	一五
本坊全景.....	一六
同 受 附.....	一六
大 師 堂.....	一七
同 内 陣.....	一七
聖 天 堂.....	一七

當山大門及明治天皇行在所碑	一八
本坊大玄關	一九
奥殿及中庭	一九
内佛殿内部	一九
四脚門	一九
明治天皇行在所	二〇
同 内部	二〇
明治天皇御下賜の銀盃	二〇
同 箱書(原日照輪大僧正筆)	二〇
御下賜 七條	二〇
同 大正天皇御幼時御衣	二〇
同 開山寛朝大僧正尊像	二〇
天國寶劔	二〇
浪切不動尊	二〇
酒醉天神圖	二〇
本堂彫刻 五百羅漢(其の一部)	二〇
同 二十四孝(其の一部)	二〇
釋迦三尊四天王十大弟子圖	二〇
成田山公園大觀	二六
同 一部	二六
同 雄 瀧	二六
成田中學校	二九
成田高等女學校	二九
成田學園	三〇
成田圖書館	三〇
成田幼稚園	三三
中興第十三世 原日照輪大僧正	三三
中興第十四世 三池照風大僧正	三三
中興第十五世 石川照勤大僧正	三三
中興第十六世 服部照和中僧正	三三
中興第十七世 池田照誓中僧正	三三
中興第十八世 荒木照定權大僧正	三三
成田山案内圖	三三

本尊舊跡

不動塚

本尊を安置將門調伏の護摩を修せる地にて現當山の南方半里の地點

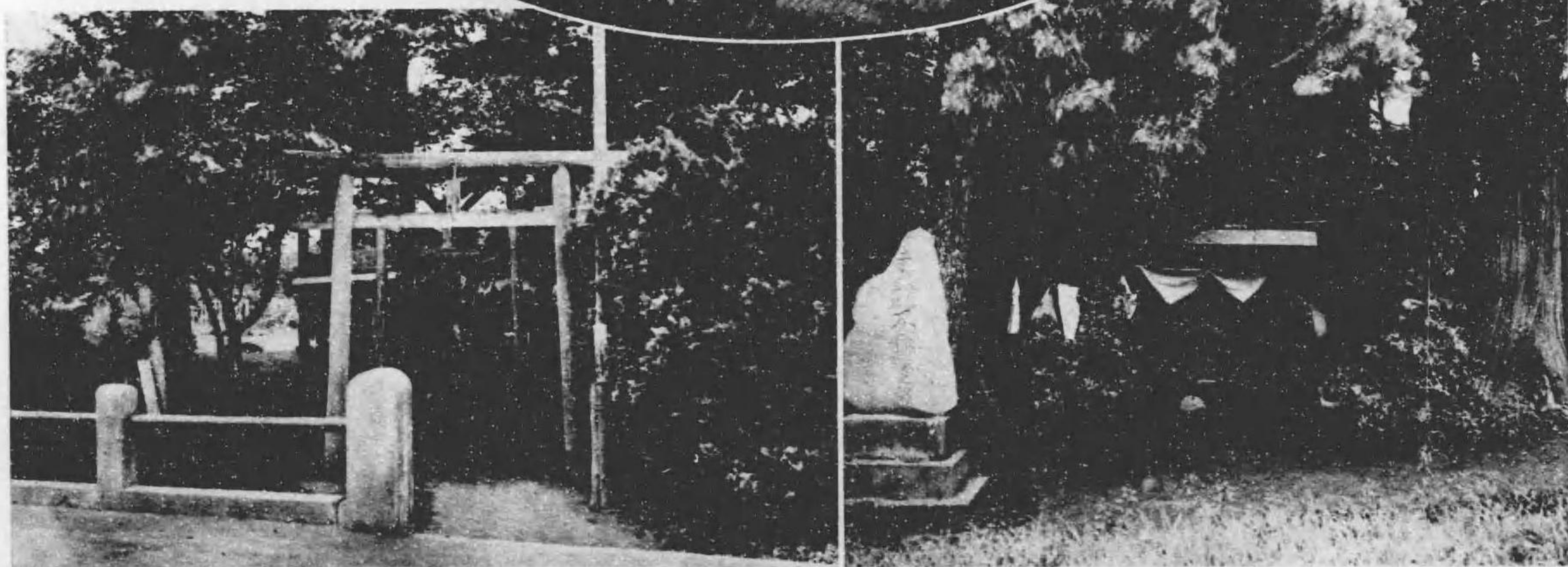
← 本尊御上陸の聖地 下總 尾垂ヶ浜



→ 開山寛朝僧正聖旨を奉じ將門調伏の爲め本尊を護持御上陸の地

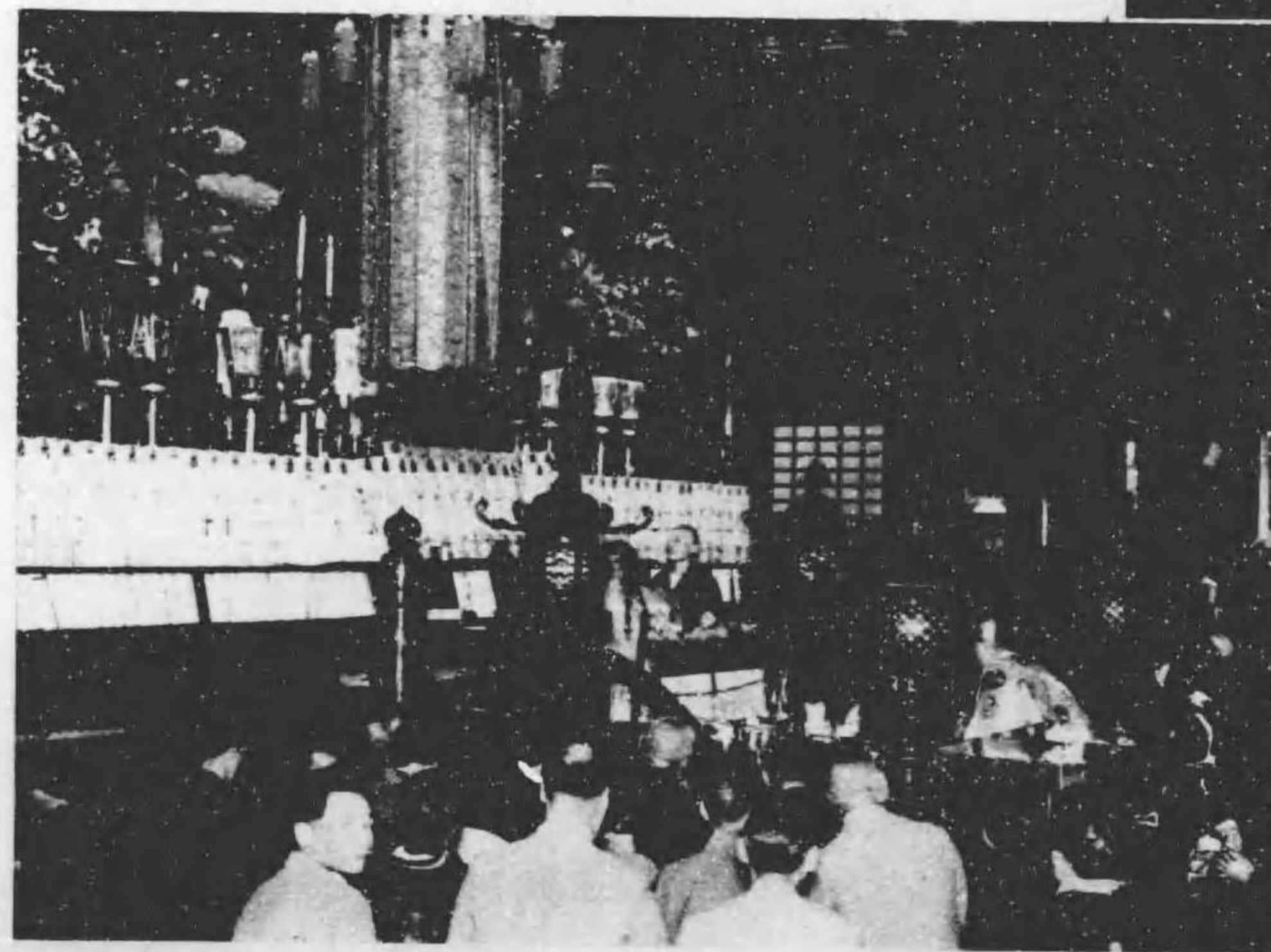
本尊舊跡

不動塚より御遷座の地



正面須彌壇上は本尊不動明  
王、其左右は鈴遮羅、制多  
迦兩童子の座にして尙左右  
別壇に大威徳・金剛樂叉・  
降三世・軍荼利の諸明王を  
安置す

障 内



堂 本

安政四年三月照獄上人苦心  
の造營にして十四間四方總  
佛造、周圍の彫刻は近代の  
傑作なり



額 扁 門 王 仁  
(筆正僧大懇道當別寺大東)

三に方右其てしに堂本は方後、門王仁は方前中央  
の坊本に方左てつ向尙、れば窺が等堂山開、塔重  
。る見を部一



面 正 堂 本 及 門 王 仁

塔 重 三

の圓周、くし美丹青、弱尺百高總、成完月三年二德正  
りな刀の微圓村島は刺彫

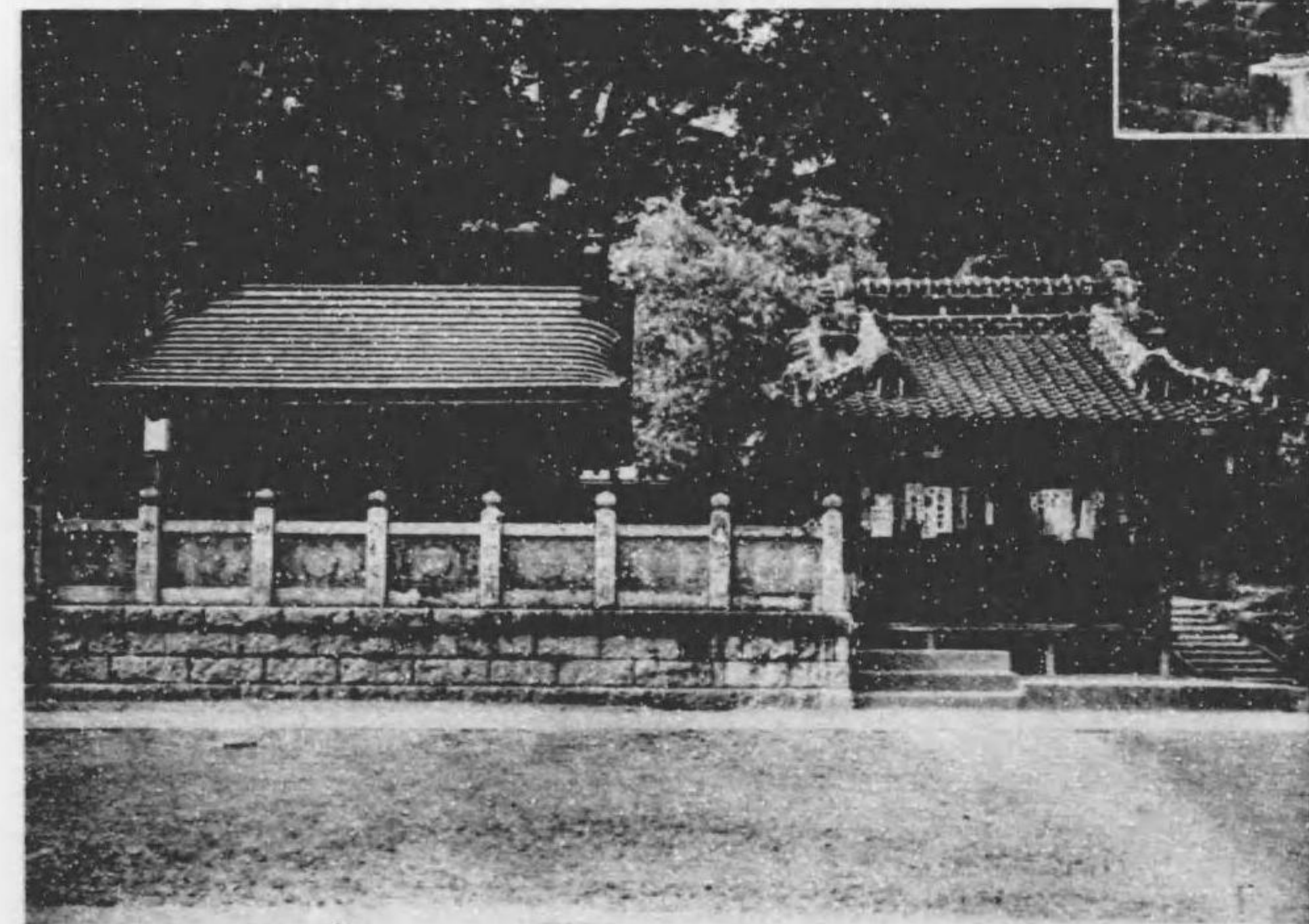
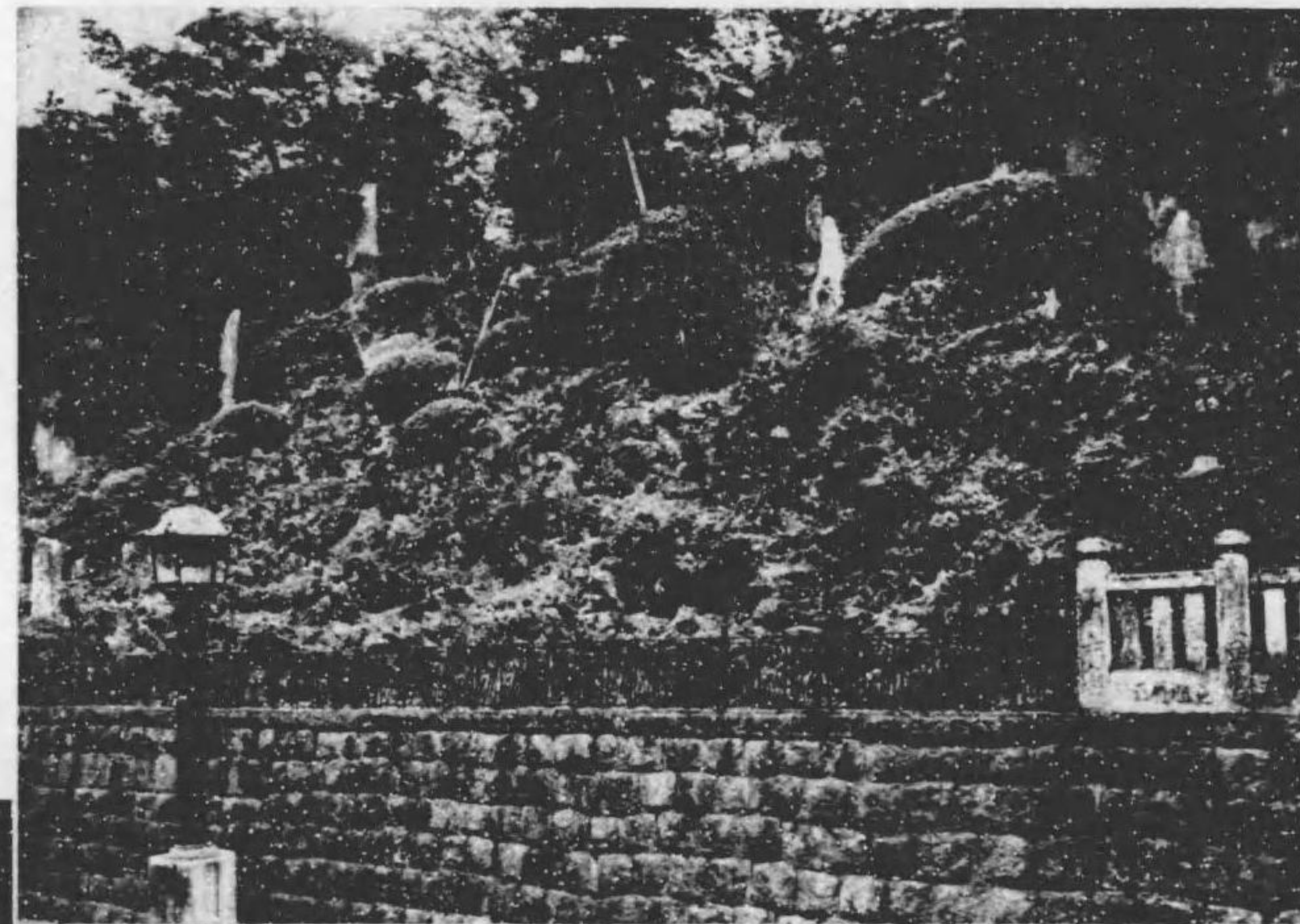


樓 鐘

(置位舊は圖本) 鐘點同三日毎、營造年三永寶

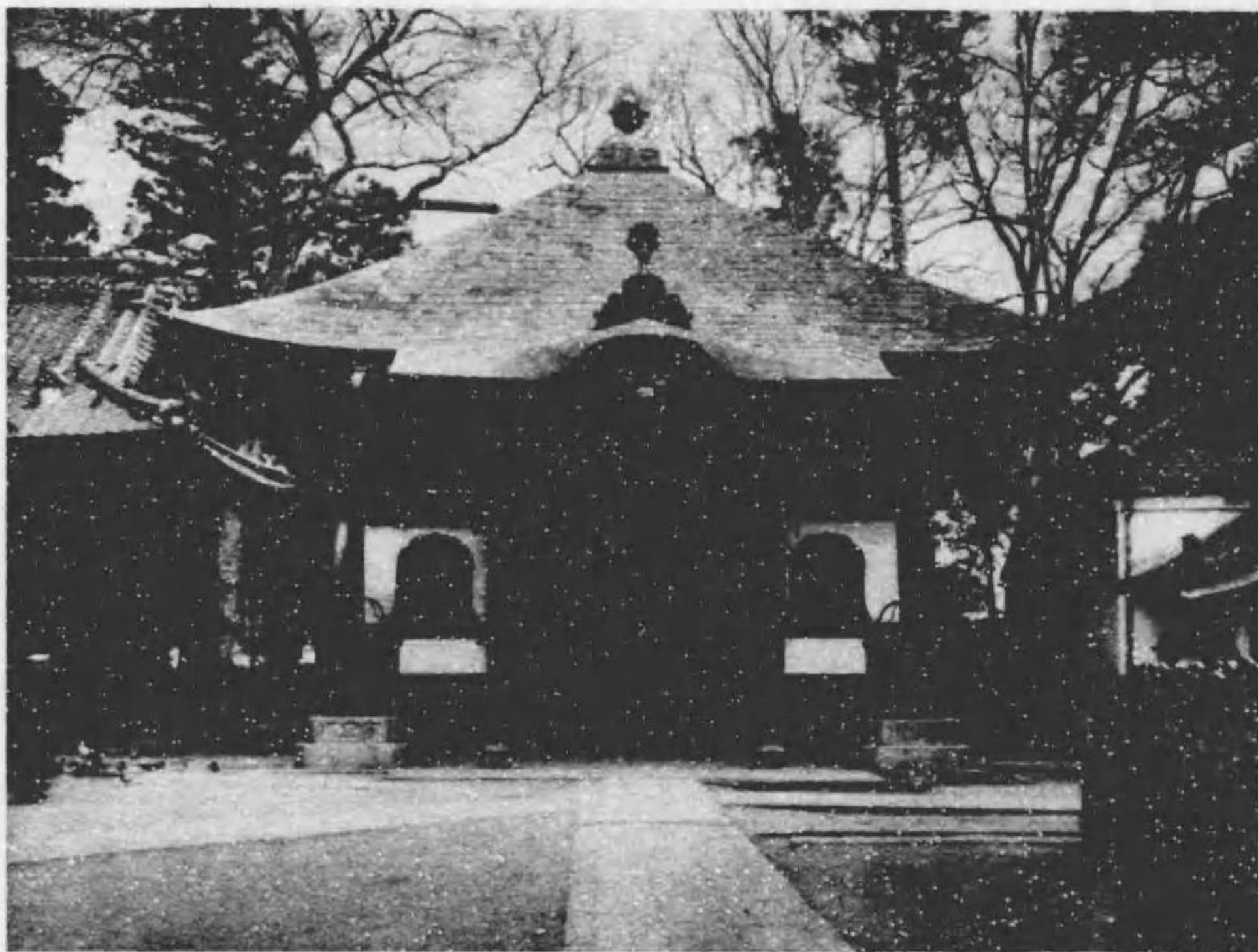
本堂裏の斷崖に點々安置せる青銅佛にして三十六尊夫れく趣を異にす

→ 三十六童子



← 水行場

井戸は「童子ヶ井戸」と稱し淨水豊富、曾ては前天、樂翁、尊德等の大徳偉人も皆此處に水浴祈願を籠む



堂 經 切 一  
立建の月一十年七保享



松平定信(白河案察公)筆扁額

に望希、め蔵を經藏大版樂黃に中、りあに央中堂經  
な卷全經切一ばせ轉回度一。むしせ轉廻なれこりよ  
るらせ稱とりあ徳功のるせ讀通

藏 轉 輪 經 切 一



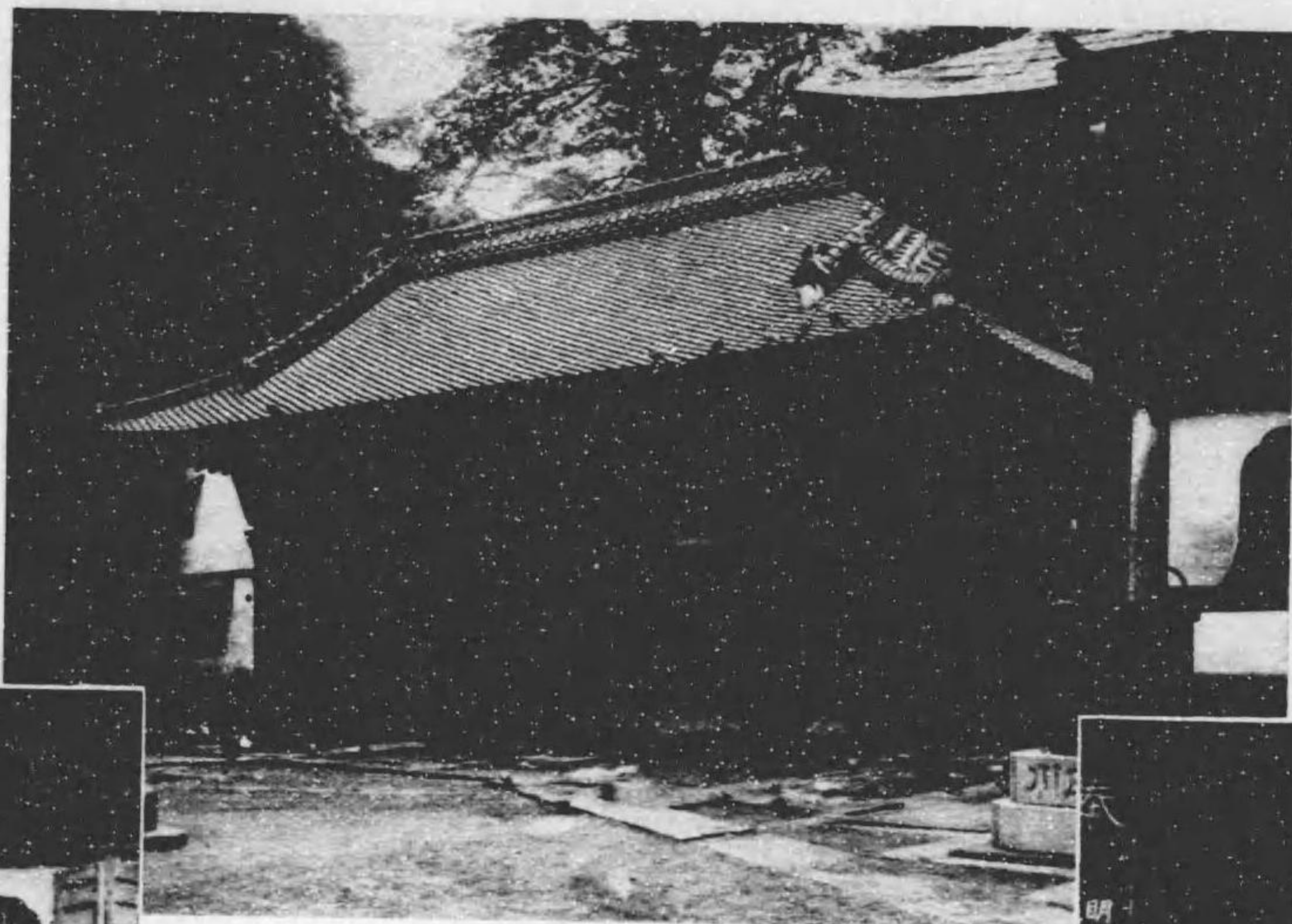
文政四年五月建設。七代目市川團十郎の寄進  
になり同丈當山に廣樓中此處にて參客に茶の  
接待かなせりと謂ふ

額 堂



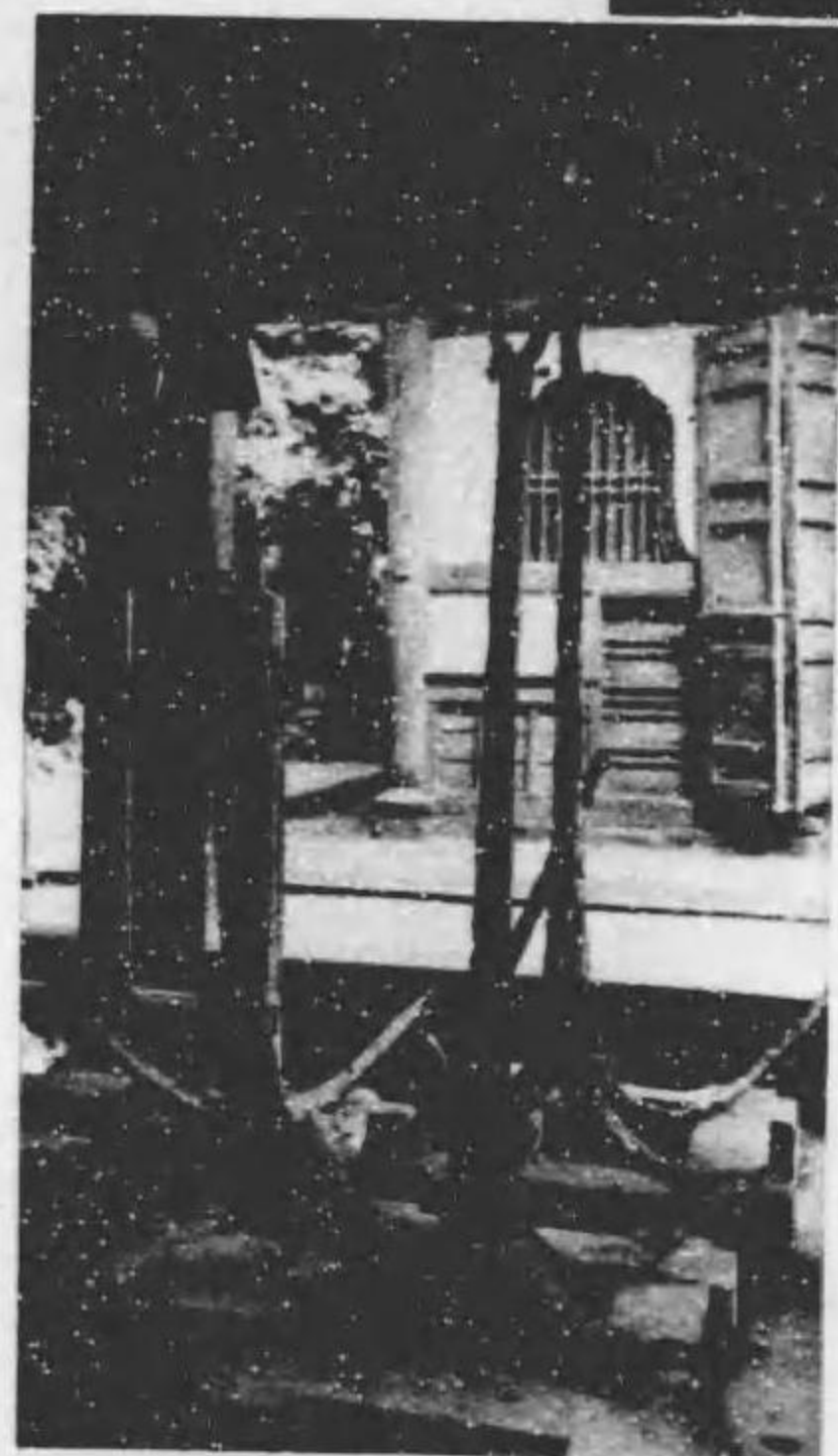
毛 綱

信者寄進の毛髪を集めて編み  
之を以て前本堂(現光明堂)を  
現地へ引上げしと謂ふ  
(額堂内に在り)



奉 納 礎

雷險により引上げしと云ふ  
大礎(額堂内)



七代目團十郎筆看板

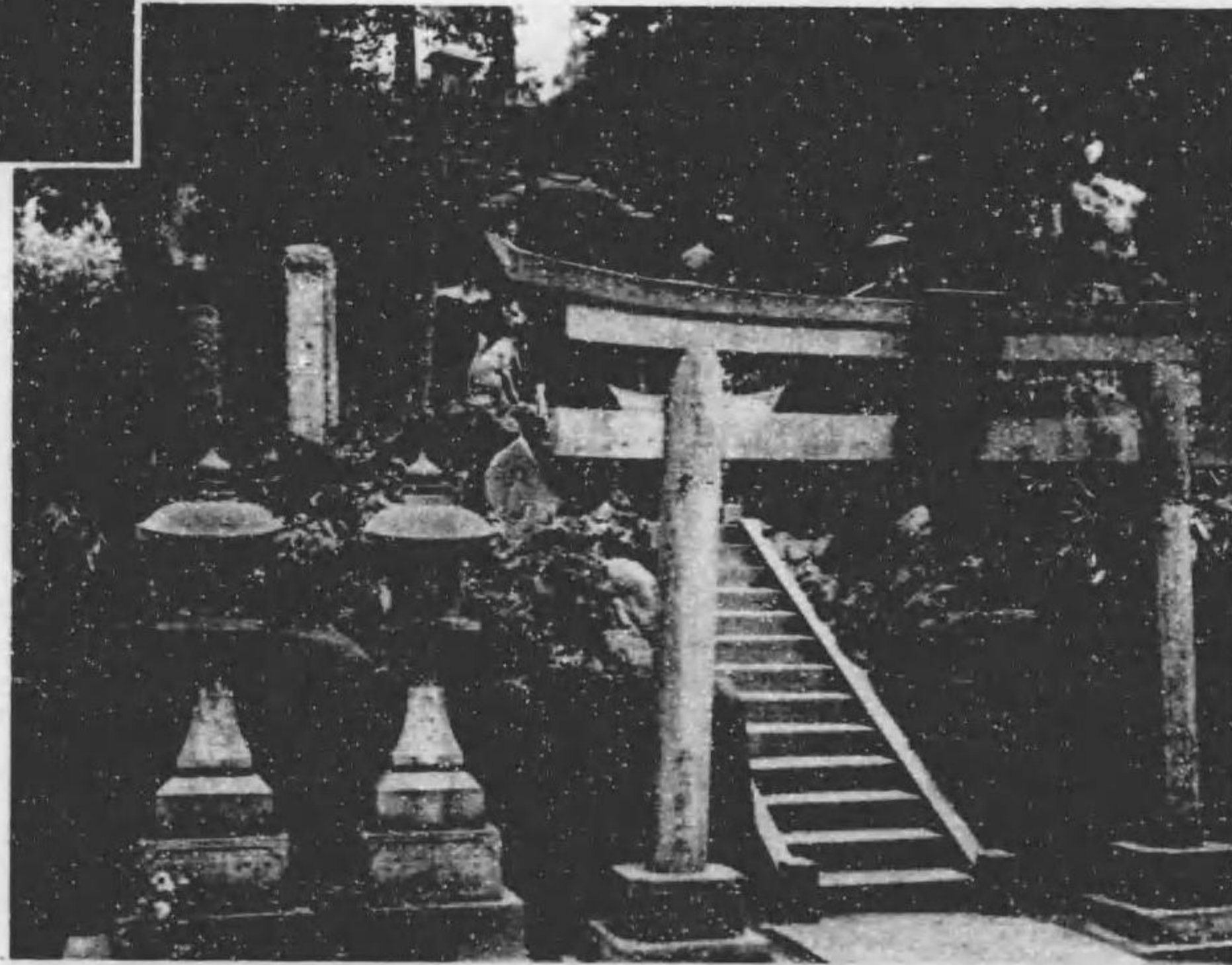
當時右額堂正面へ掲げたるもの





←奥之院

光明堂裏の洞窟内に大日如来を安置し  
毎年七月七、八、九の三日間盛大なる  
祭典を催して是れを開扉す  
周囲の岩板は古板碑として知らる



→吒枳尼天堂

本坊裏山に在りて俗に出世稻荷と稱し、諸藝人、花柳界方面の信者多く、恒例行事の午祭には股賑を呈す

明治廿一年改造



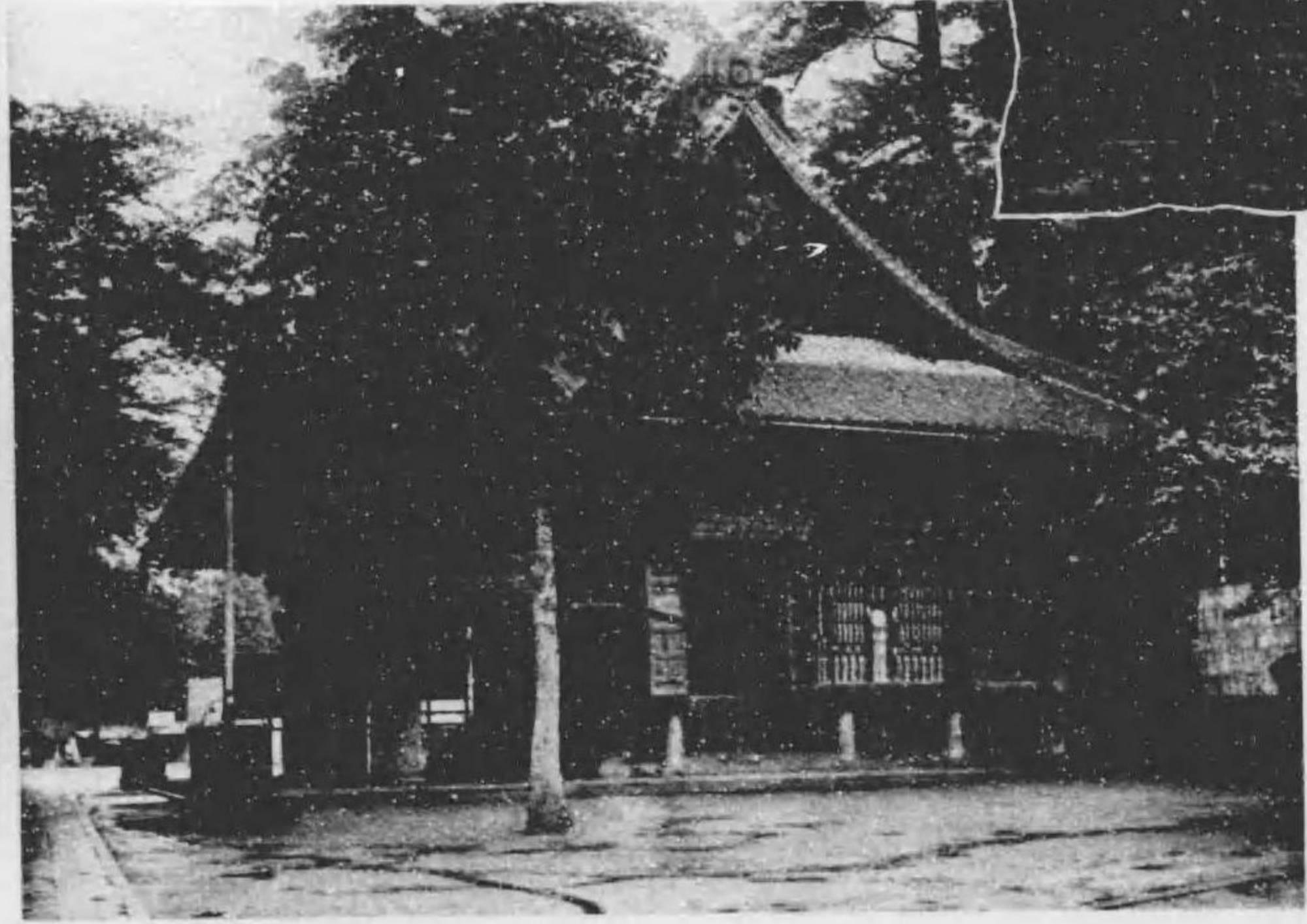
↑ 像 尊 子 太 德 聖



↑ 光 明 堂 扁 額  
安井門主道恕大僧正筆

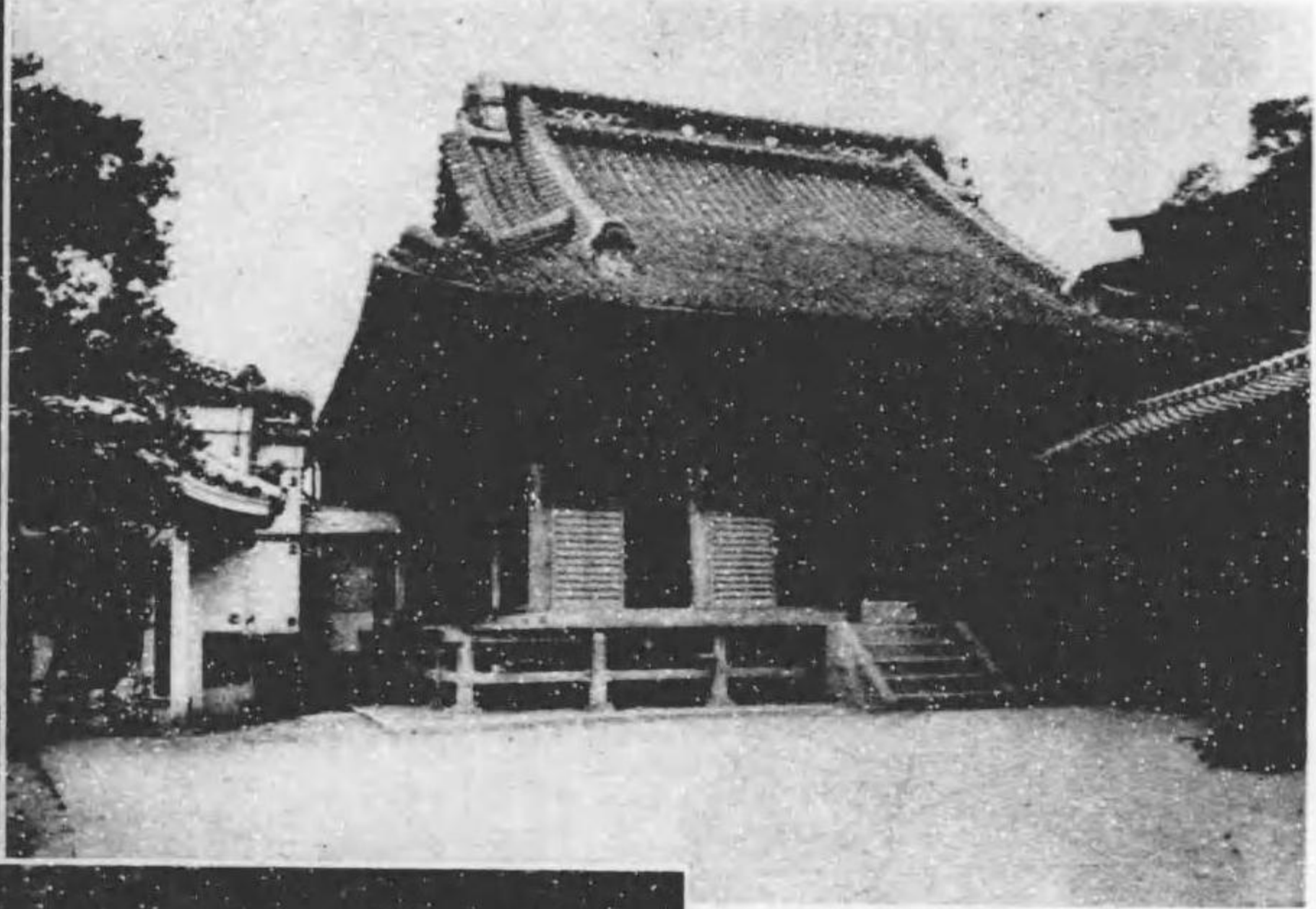
元禄十四年造立、總朱塗にして舊本堂  
なりしを安政四年現本堂造替の際此處  
に移して大日如来を安置す。

堂 明 光

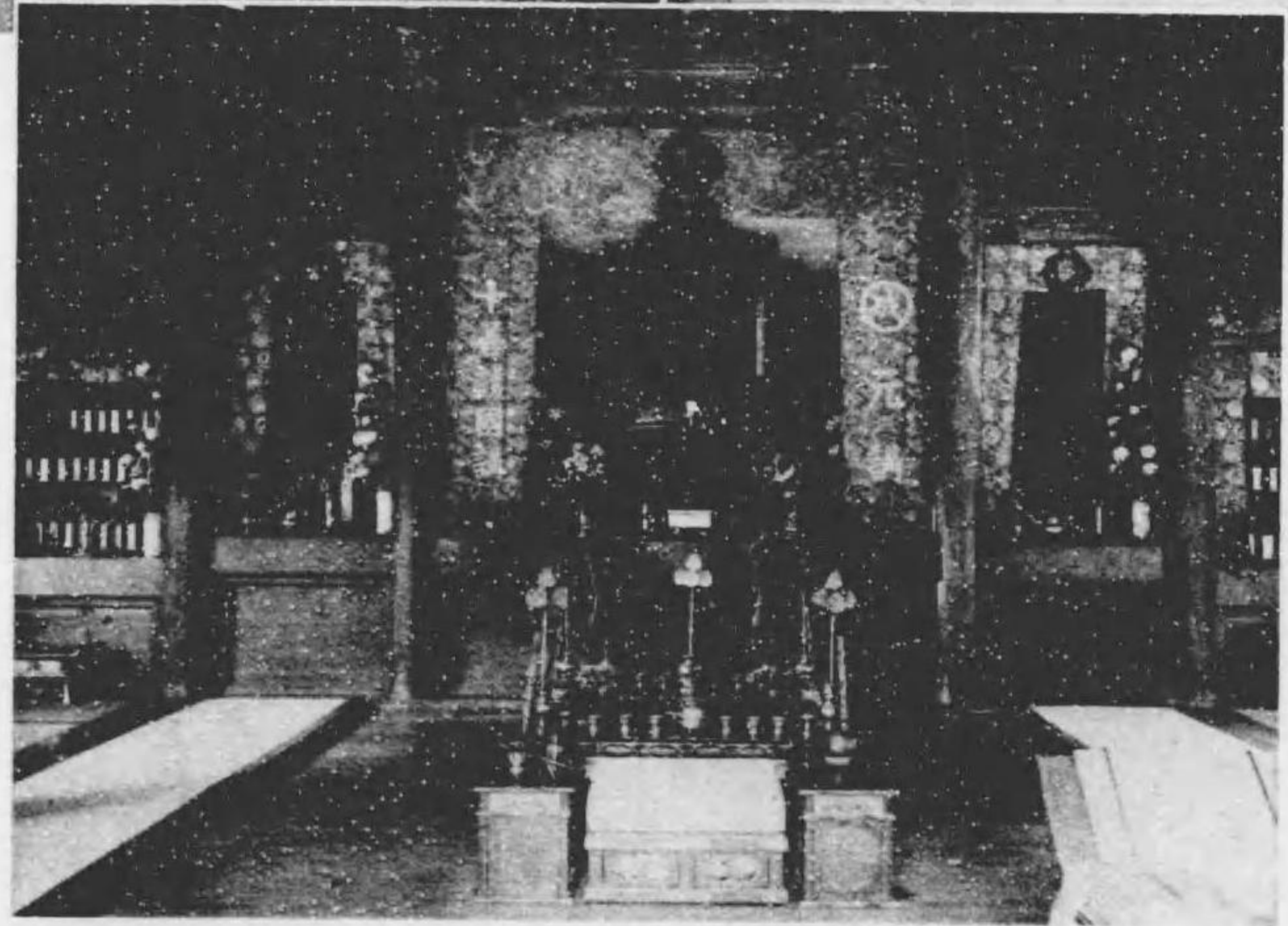




↑ 聖天堂



↑ 大教師堂



← 大教師堂内陣

明治二十一年再建、總構造、  
正面に宗祖弘法大師像を安置し、右に理源大師  
左に興教大師を併祀し又先師及有縁篤信者の日  
月牌等諸靈位を安置す



→ 本坊全景

敷石正面は本坊受附にして、左へ内玄  
關、客殿を望み、更に後方奥殿、内佛  
殿を隔て、築山の一角を見る



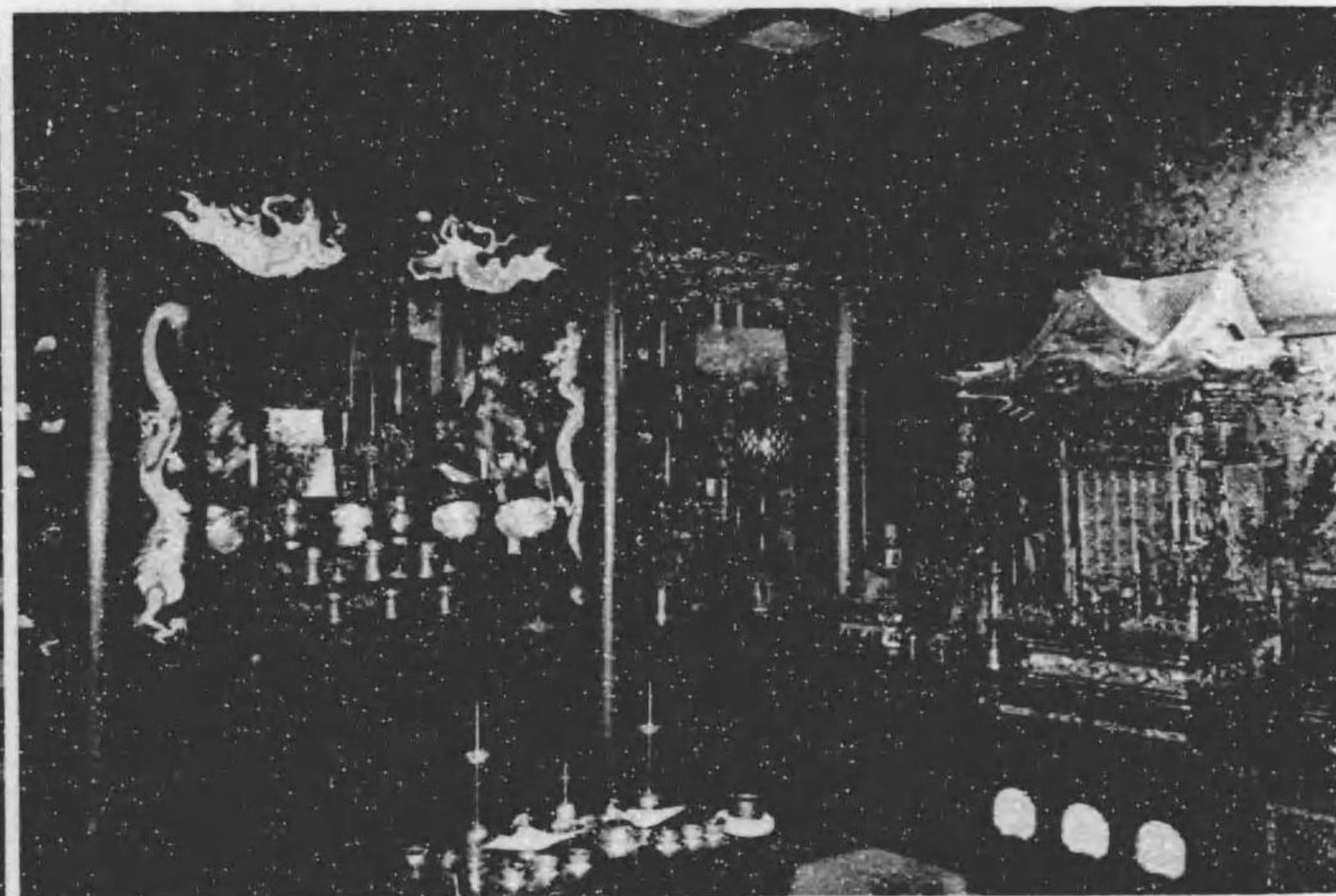
← 本坊受附

本坊受附に於て大護摩をはじめ、一般  
護摩札の申込を受附け正、五、九の三  
ヶ月の如きは立錫の餘地なき迄の雜聞  
を呈す



↑ 奥殿及中庭

奥殿は昭和十一年四月伊藤平左衛門氏に依頼新築せるものにして、四脚門は曾て勲業博覽會に於ける宮内省の御買上品を中山一位局より寄進せられたるものなり

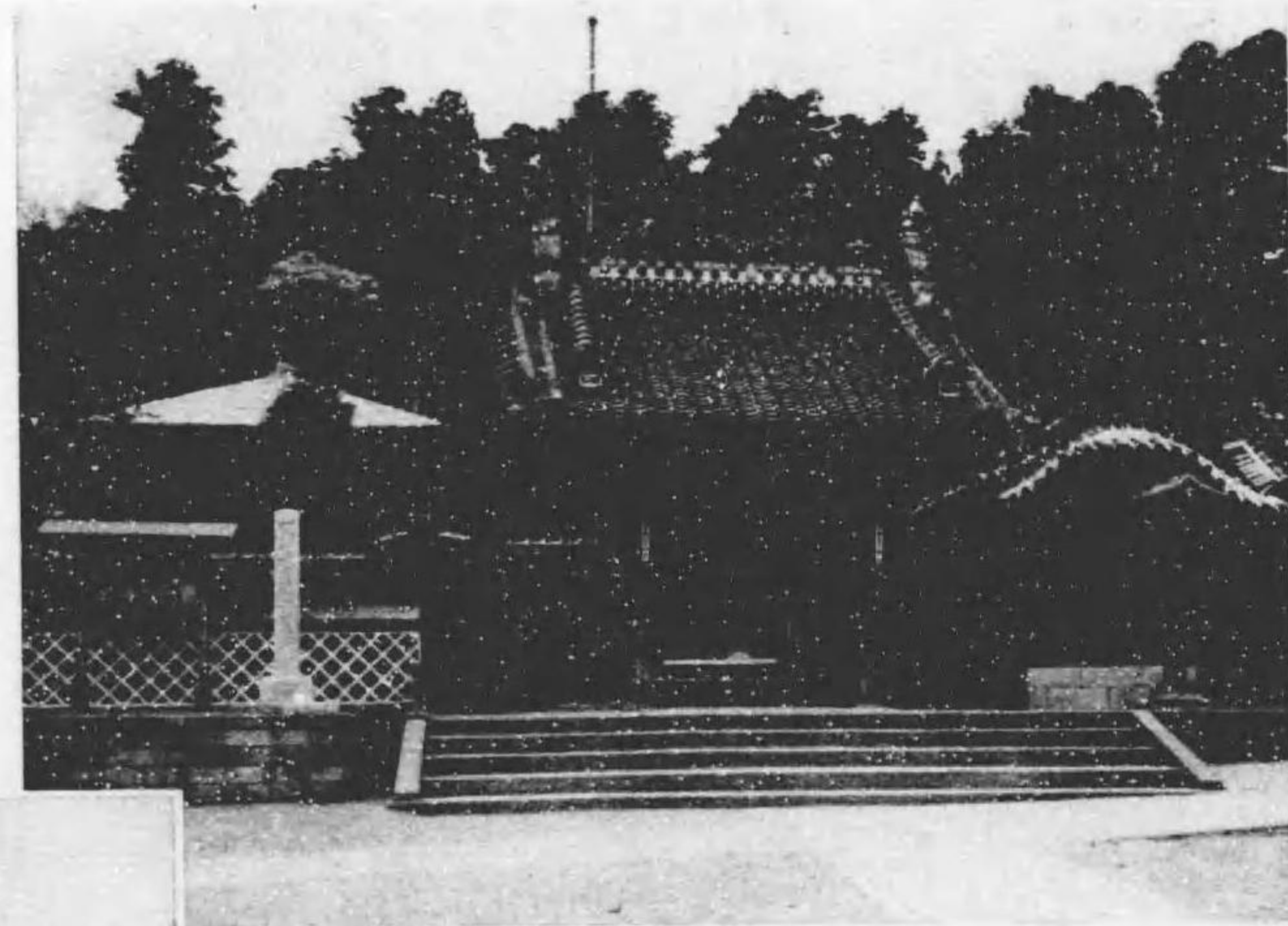


↑ 内佛殿内部

奥殿に緞く一字にして、正面に不動尊を安置し、周圍に寶物の一部を掛置す



→ 四脚門



↑ 當山大門及明治天皇行在所碑

本坊の正門とも云ふべく門内左に名木「楠」の蔭ひを見、向て左方の行在所碑は明治十四年六月廿九日及同十五年六月六日 明治天皇の御駐泊遊ばされし故を以て、昭和十年文部省指定史蹟となりたる記念碑なり

客殿の正面に位し、大法會等公式の場合に限り通用す  
客殿は本坊唯一の大廣間にして、篤信各位をはじめ坊入の變應所なり

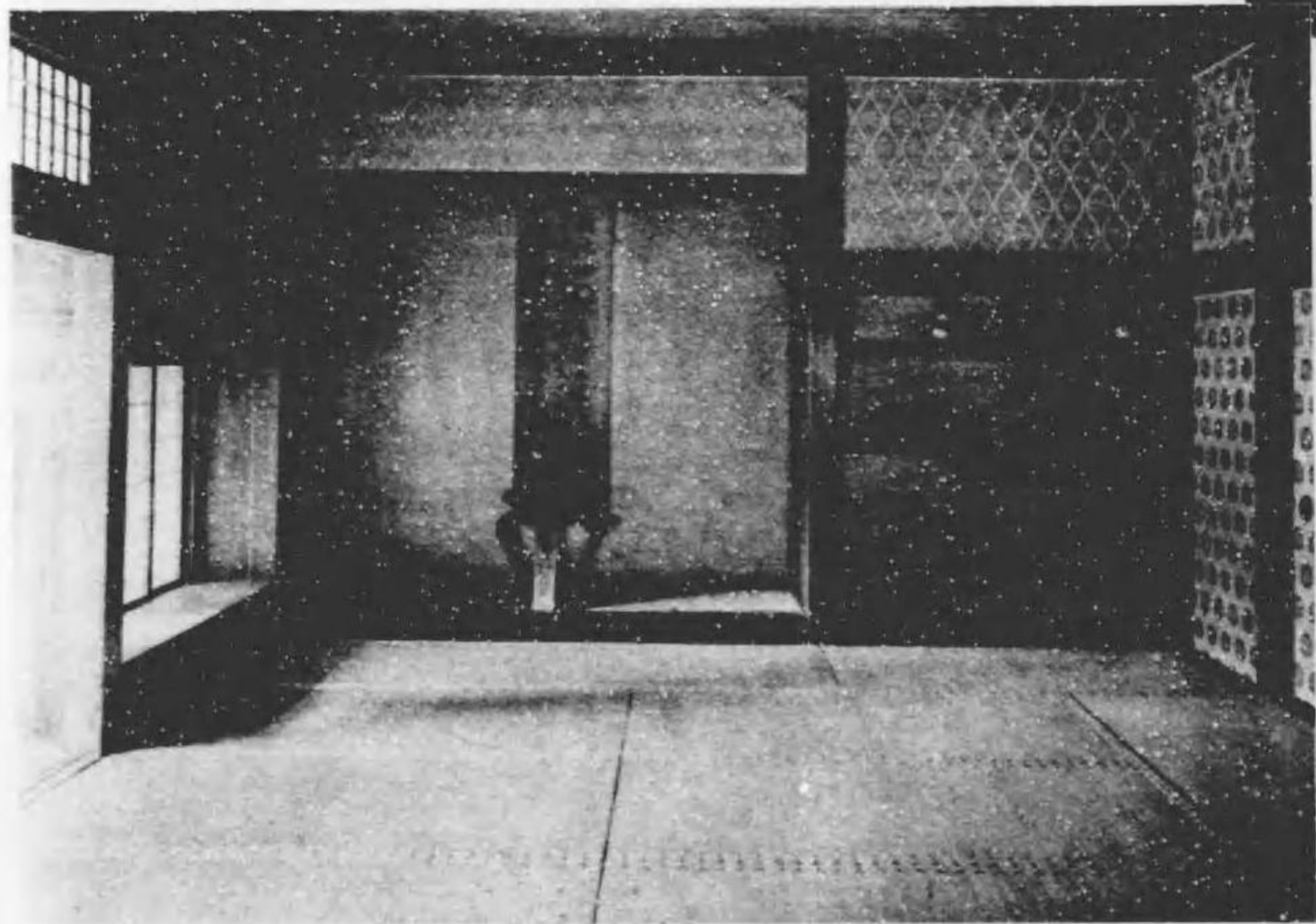
↓ 本坊大玄關





→ 明治天皇行在所

明治十四年六月廿九日及同十五年六月六日の兩度 明治天皇三里塚に行幸の際行在所となり昭和十年文部省指定史蹟の光榮を擔ふ



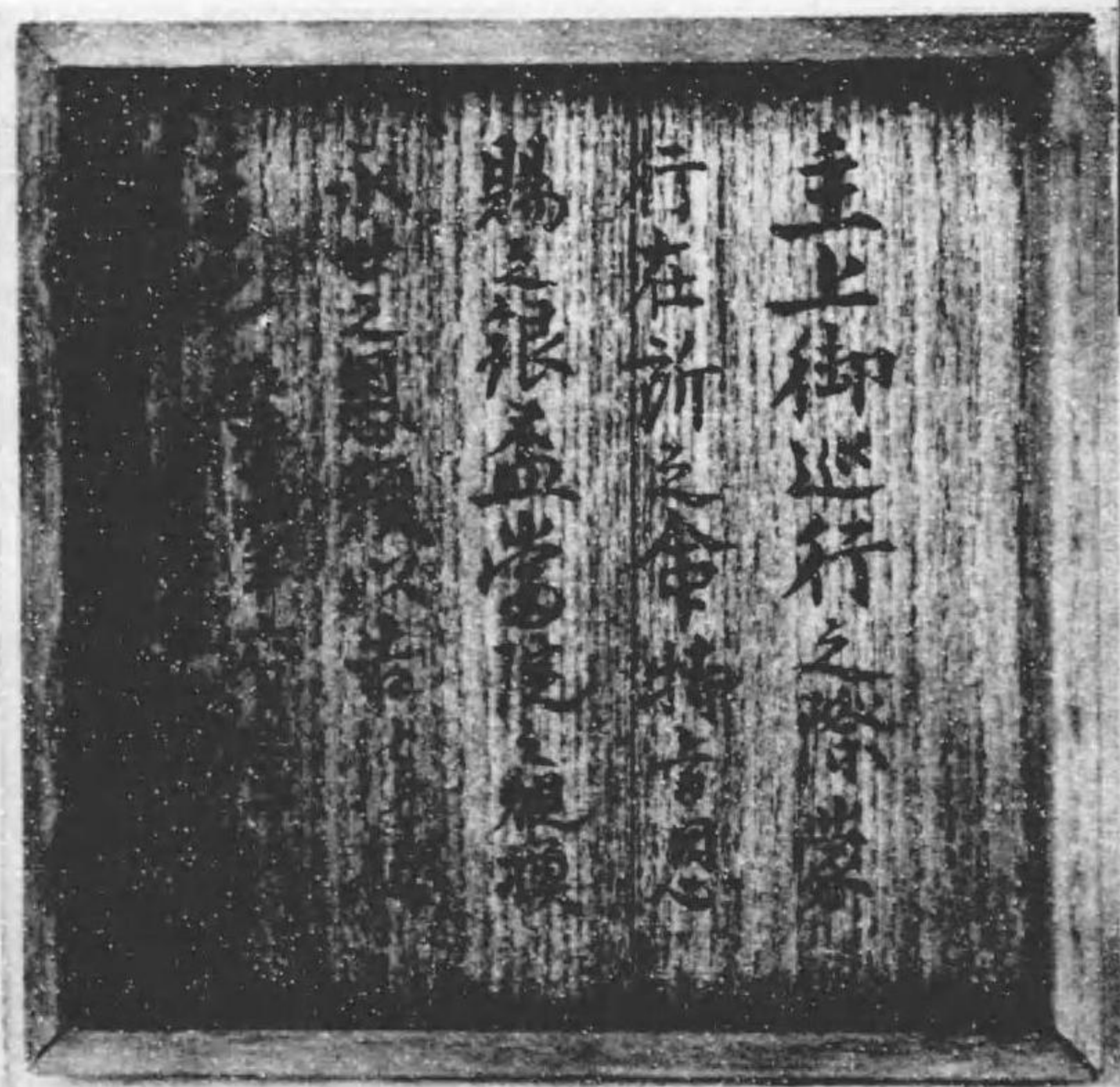
← 行在所内部

内部は極めて簡素なるも、總神代杉造り、天井は鏡張、畳は本備後、通し十五疊敷にして、袋棚は抱一筆の花鳥古色を帯び、能く當時の舊觀を保てり



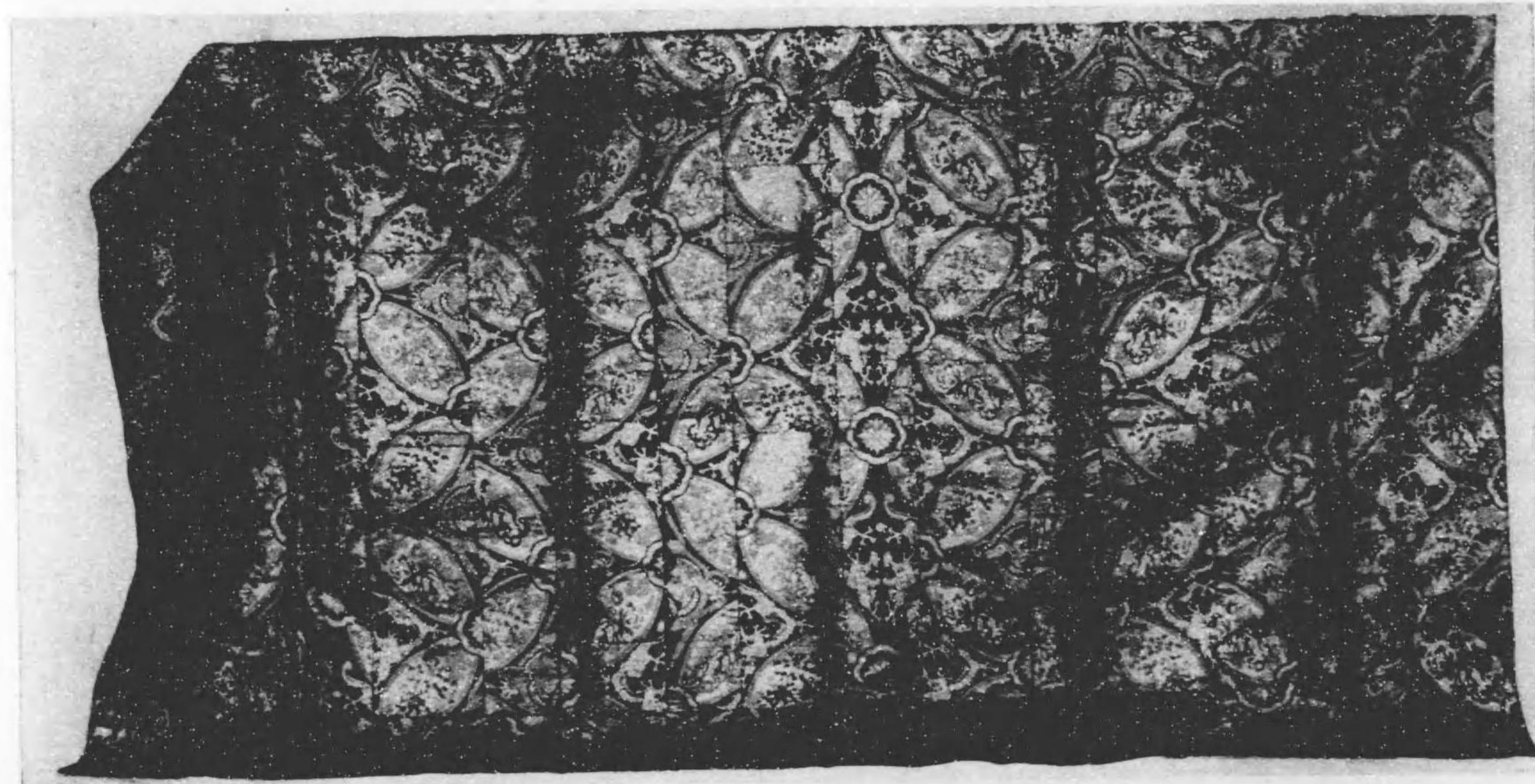
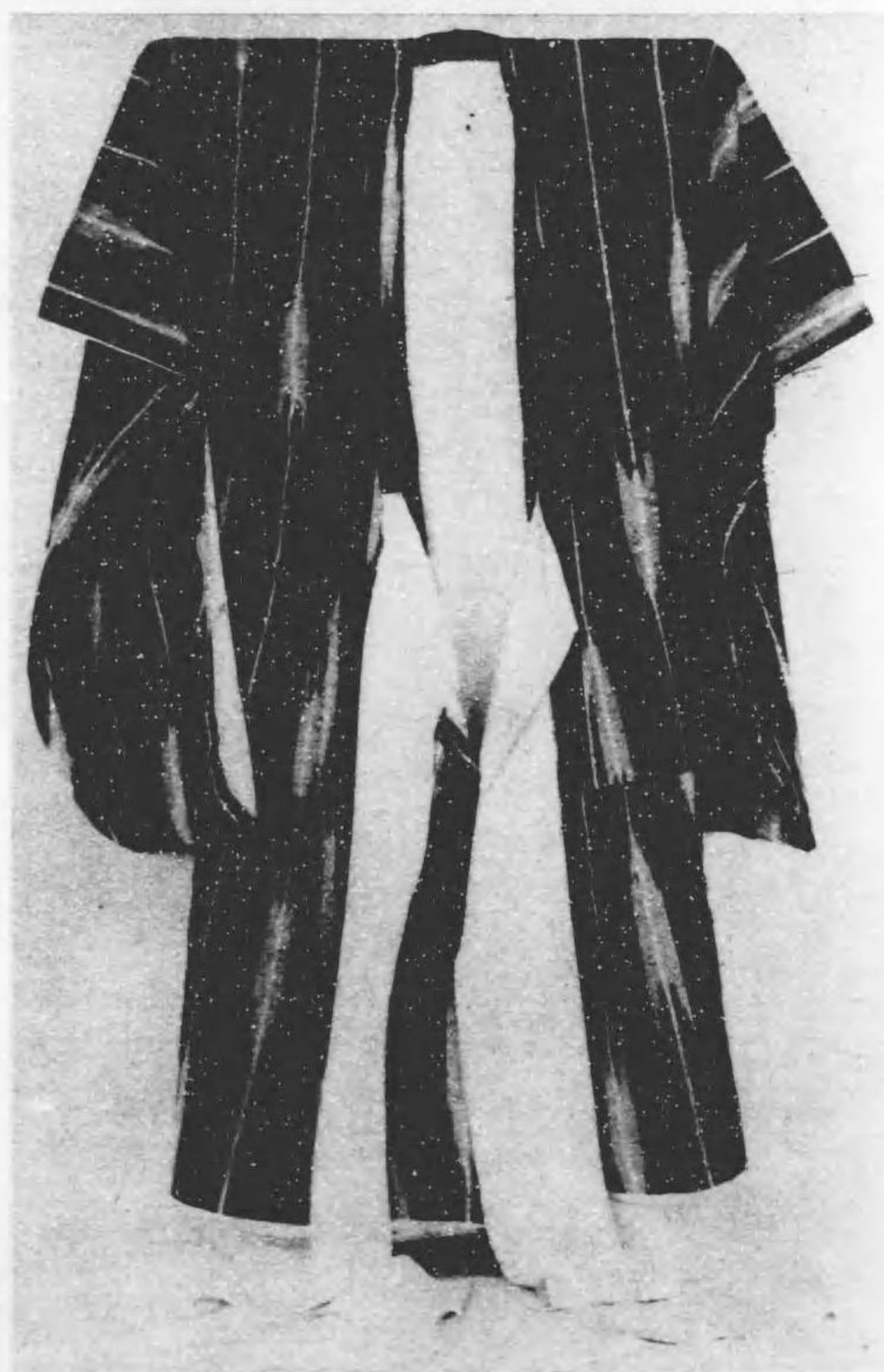
明治天皇御下賜の銀盃

同箱書





大正天皇御幼時御衣



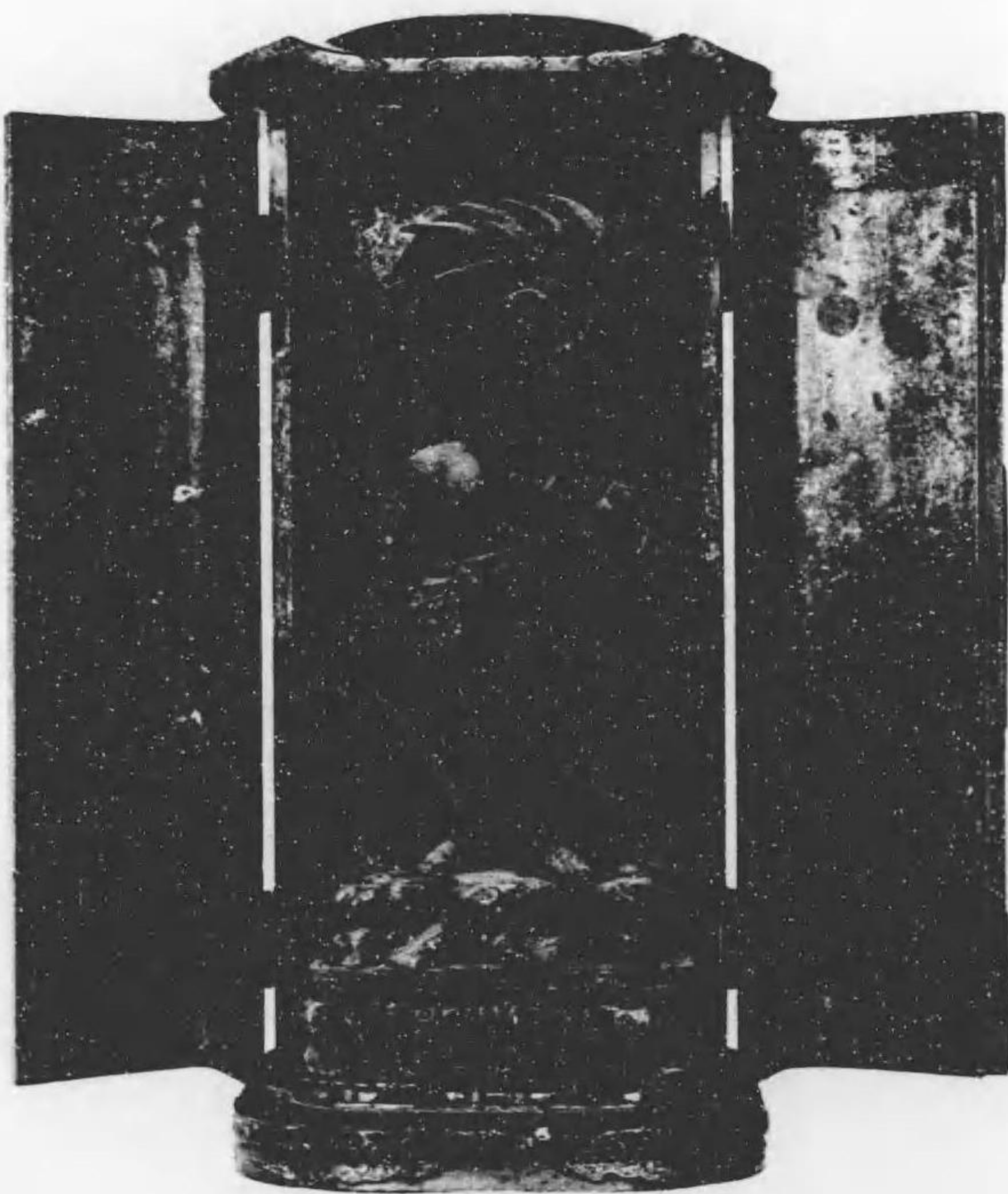
御下賜七條明治十五年御賜の錦を以て製せり



← 酒醉天神圖

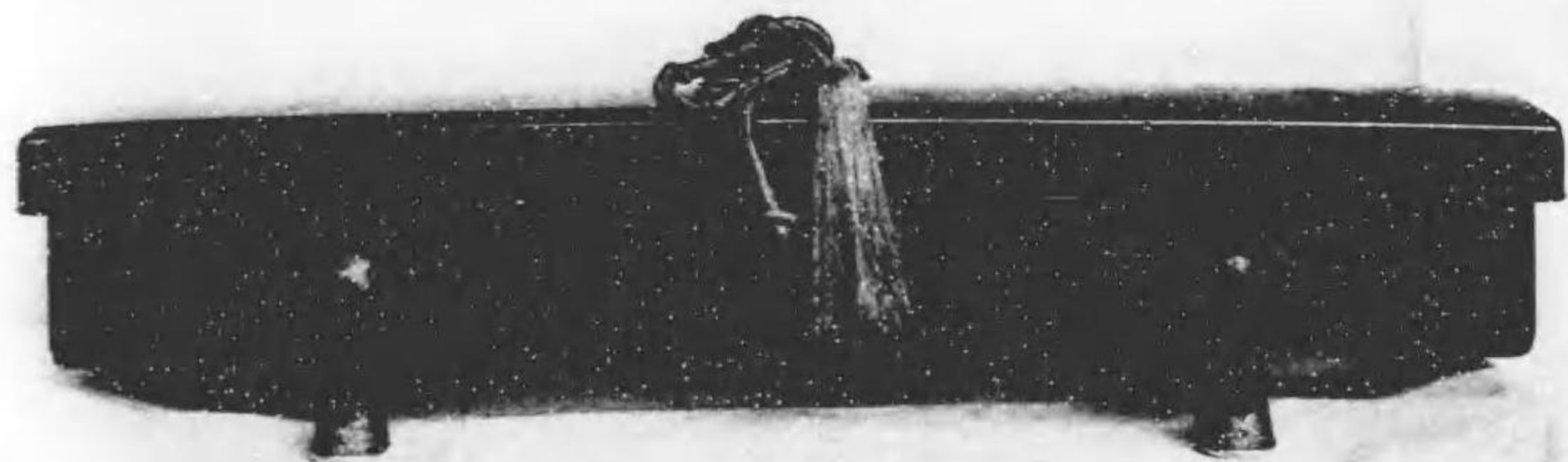
傳 菅原道真筆

→ 浪切不動尊



弘法大師入唐の折船中夢現の尊像を縮材にて謹作せりと  
傳ふ  
富山第二の靈寶なり

尊前に御神酒を供進すれば畫中の尊顔忽ち朱色を帯ぶと  
いふ  
富山第三の靈寶



天國寶

天慶二年將門調伏の爲め 朱雀天皇よ  
り開山寬朝僧正に授け給ひし寶鏡にし  
て富山第一の靈寶たり  
毎年七月七、八、九の三日間參拜を許す

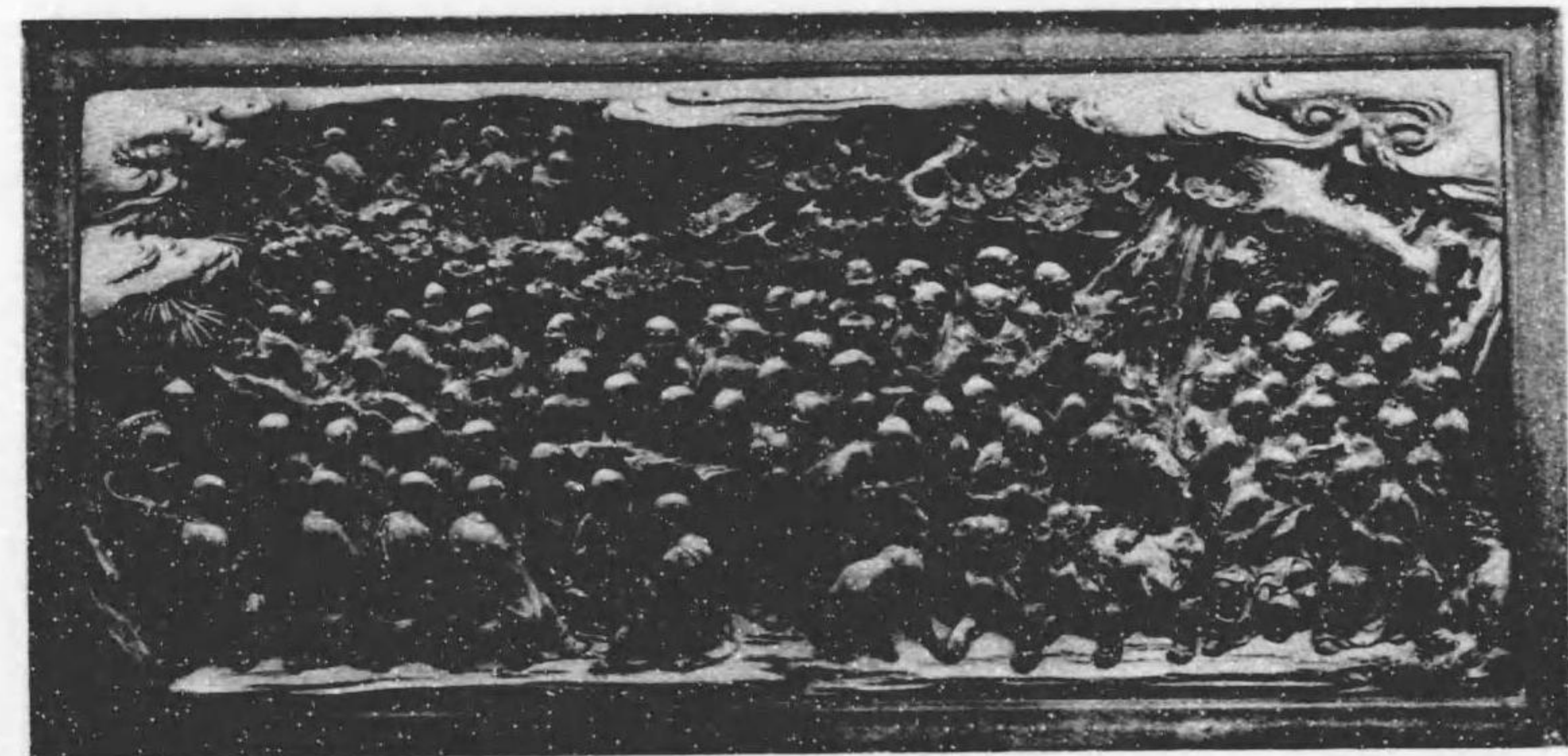


開山寬朝大僧正像



釋迦三尊四天王十大弟子圖

狩野一信筆



(部一の其) 孝四十二刻彫屏堂本  
刻表俊村島

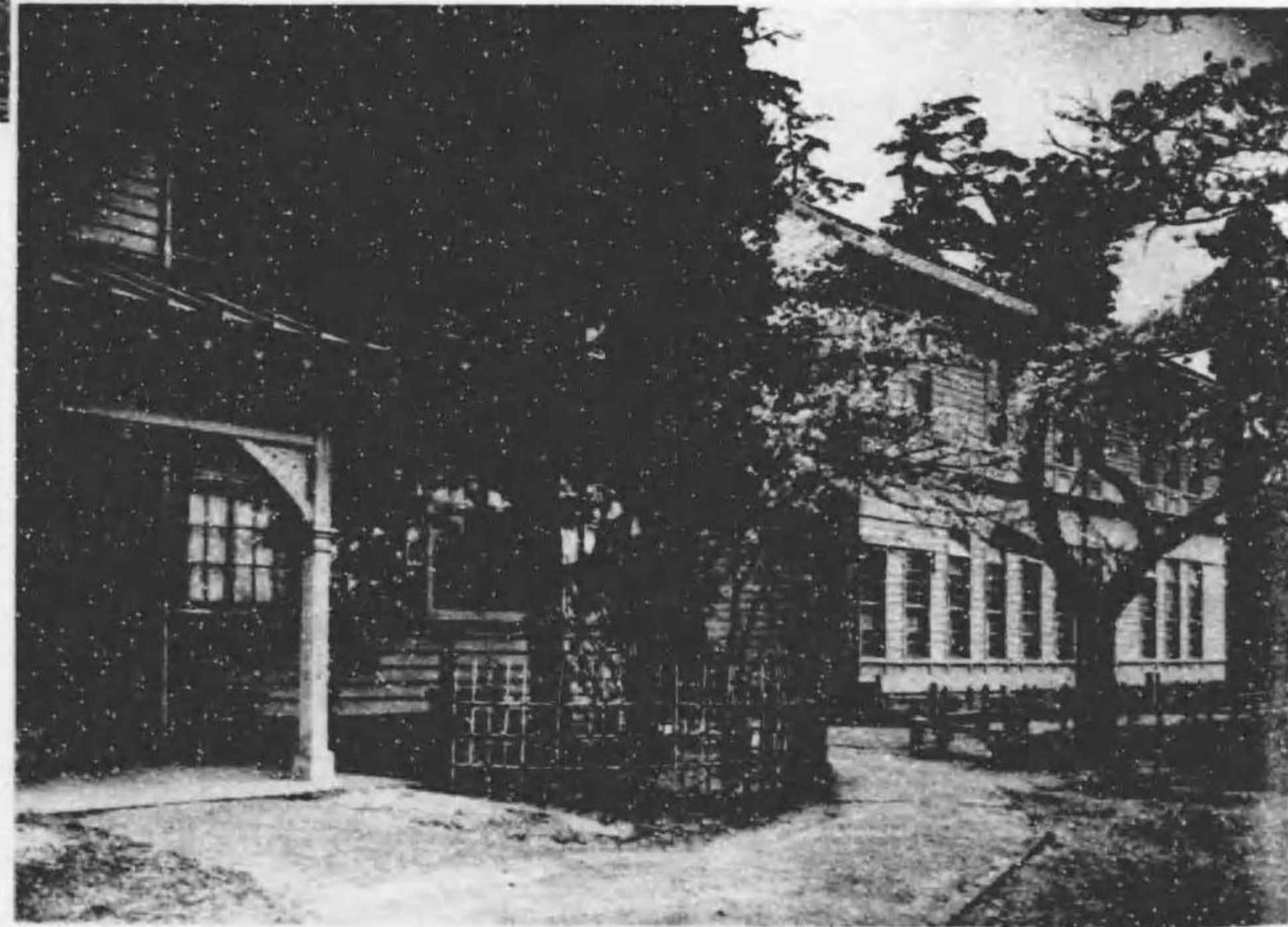


(部一の其) 漢羅百五刻彫堂本↑  
刻山良本松 案信一野狩



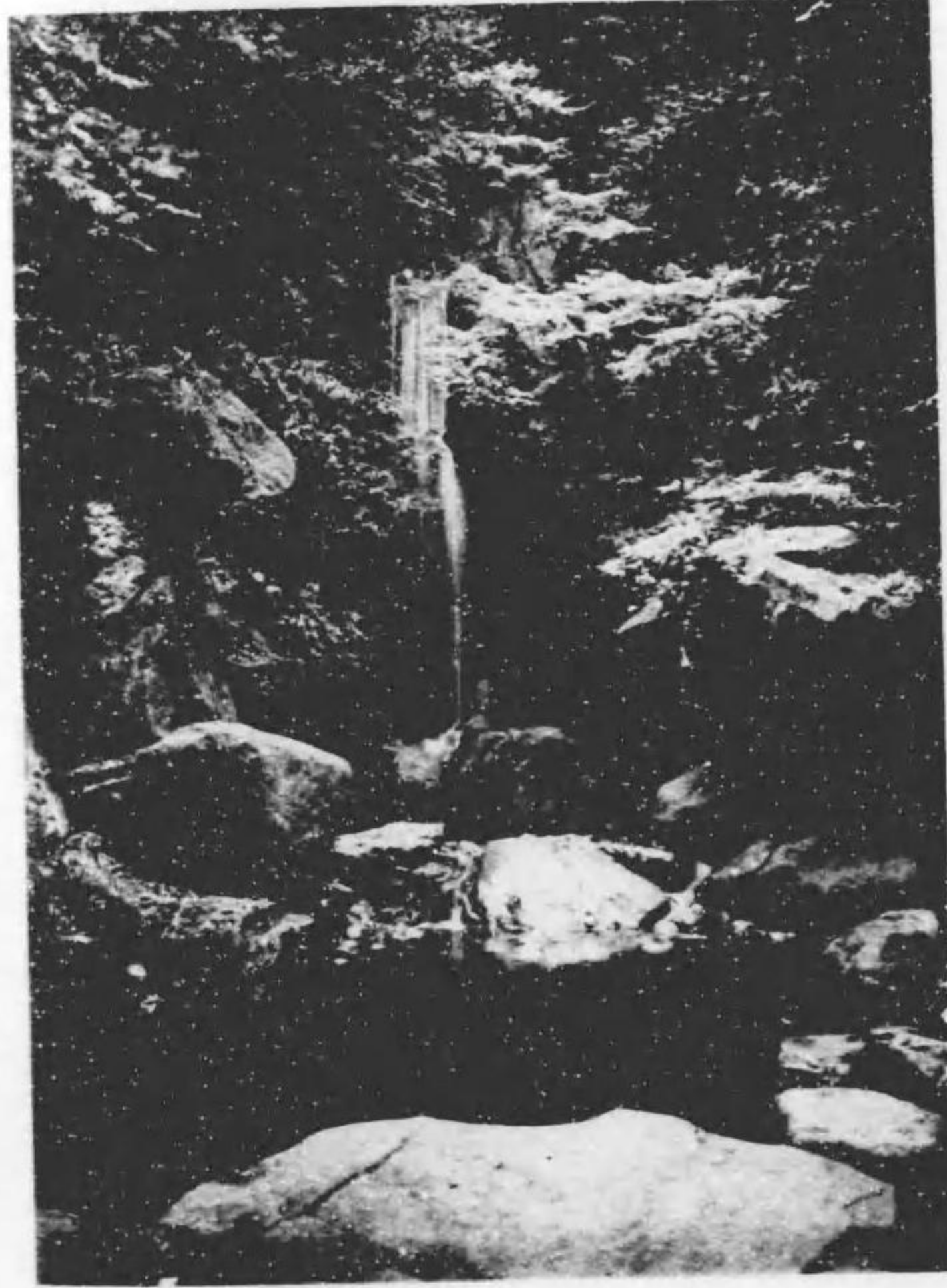
← 成田中學校

明治二十一年八月設立の成田英漢義塾  
を同三十一年十月成田中學校と改稱新  
築し、爾來卒業生を送る三十六回、千  
數百名の人材を教育す  
職員二十八名、收容生徒三百五十名



→ 成田高等女學校

明治四十一年四月の創立にして、成田  
山女學校と稱せしも同四十四年二月現  
在名に改稱し卒業生を出すこと二十六  
回一千名に垂んとす  
職員二十名、收容生徒二百餘名

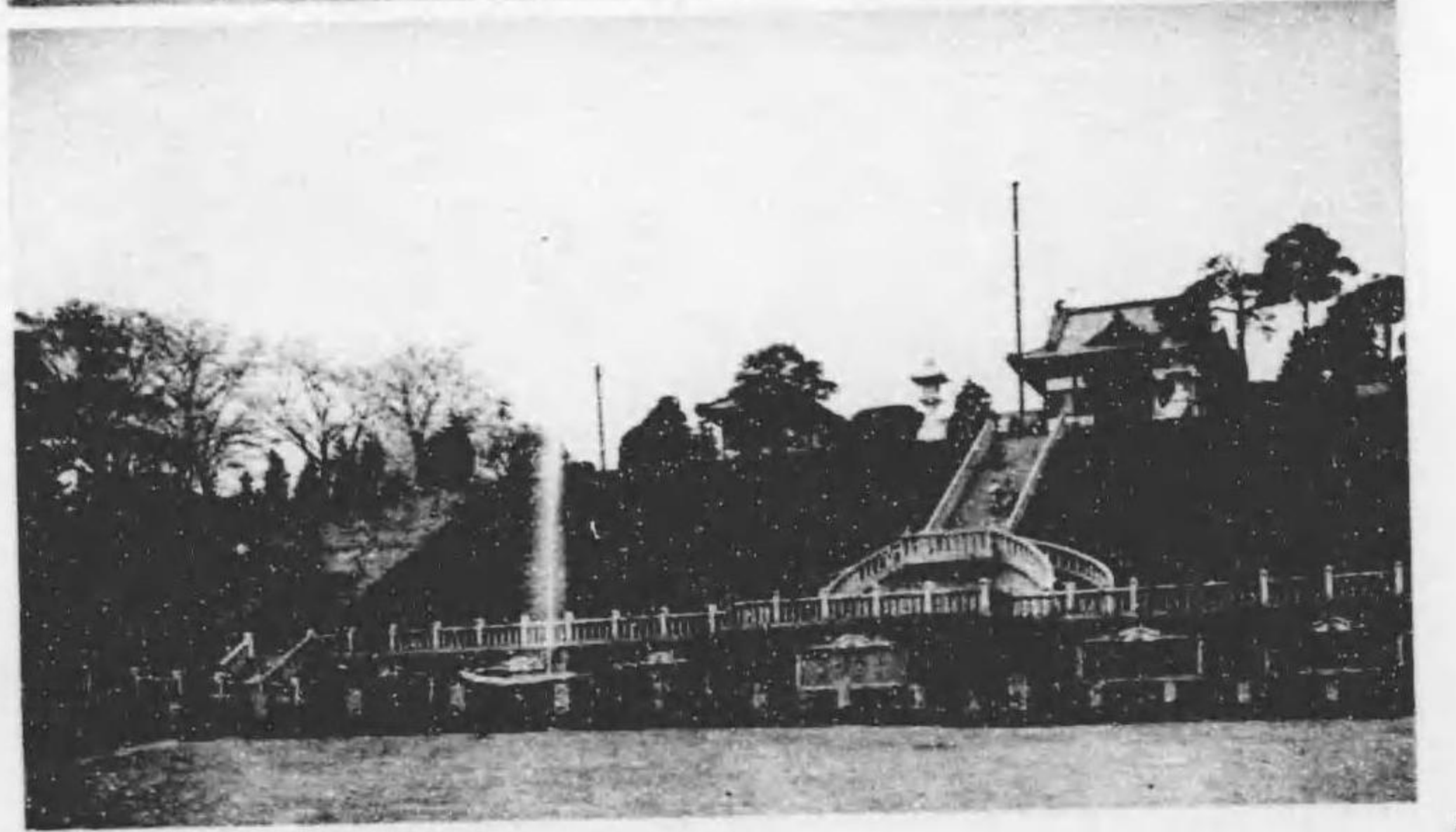


↑ 雄 瀧  
原壁「雄飛の瀧」の大觀に倣ふ

成完年三和昭、りよに資淨の大多と子日の年々十は園公  
相美兩の工人、然自、坪餘萬四積面全、てしにのもるせ  
す適に覽遊の時四てつ俟

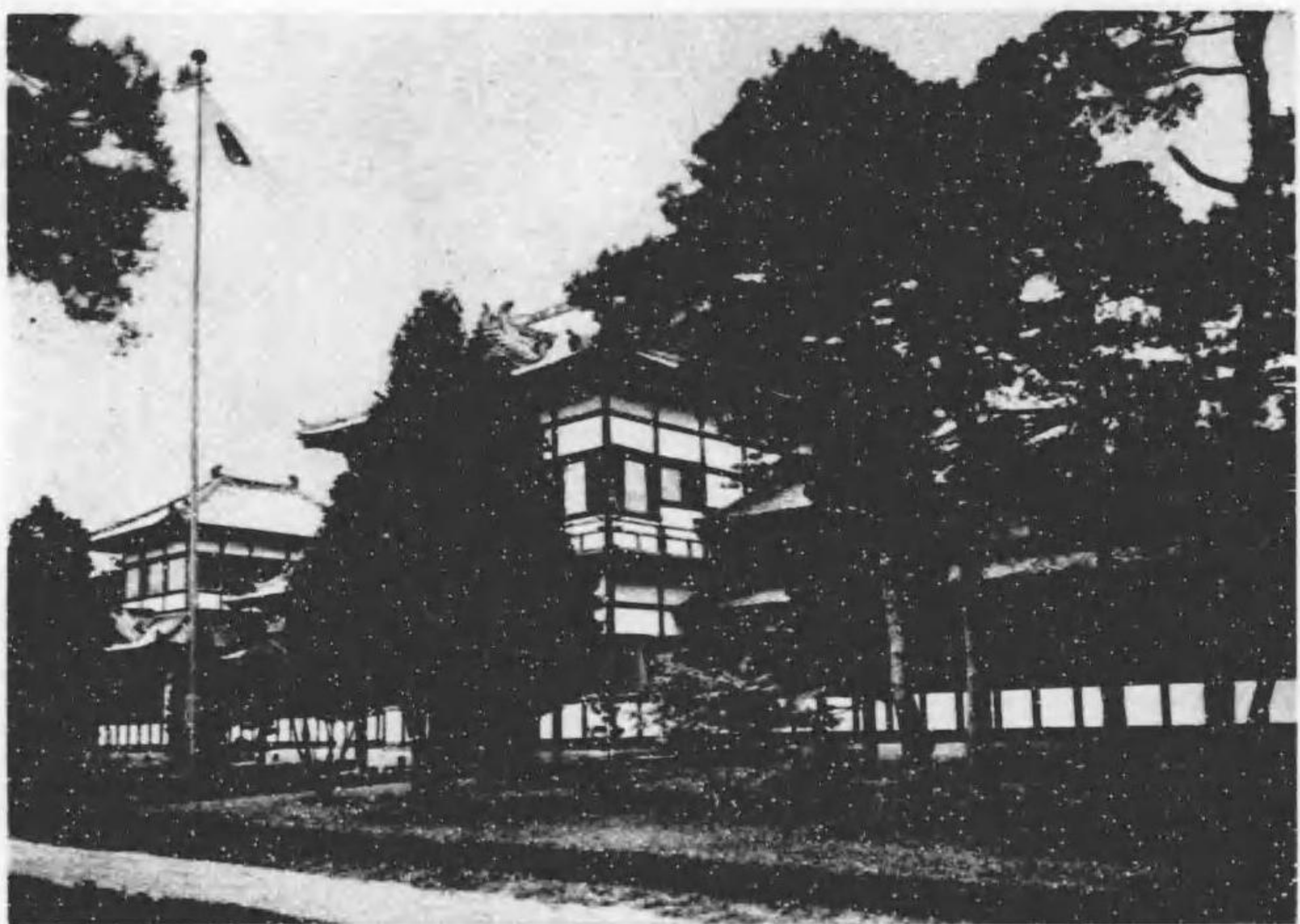


→ 成田山公園大觀



→ 公園の一部





← 新更會

地方青年の教養機關として現賞首の發  
意により、昭和三年六月創立せらる  
毎年の夏季大學講習をはじめ、各種講  
習、展覽會、新更學院（短期中等教育）  
の併設、地方支部の統制、出版等諸般  
の事業に専日なし



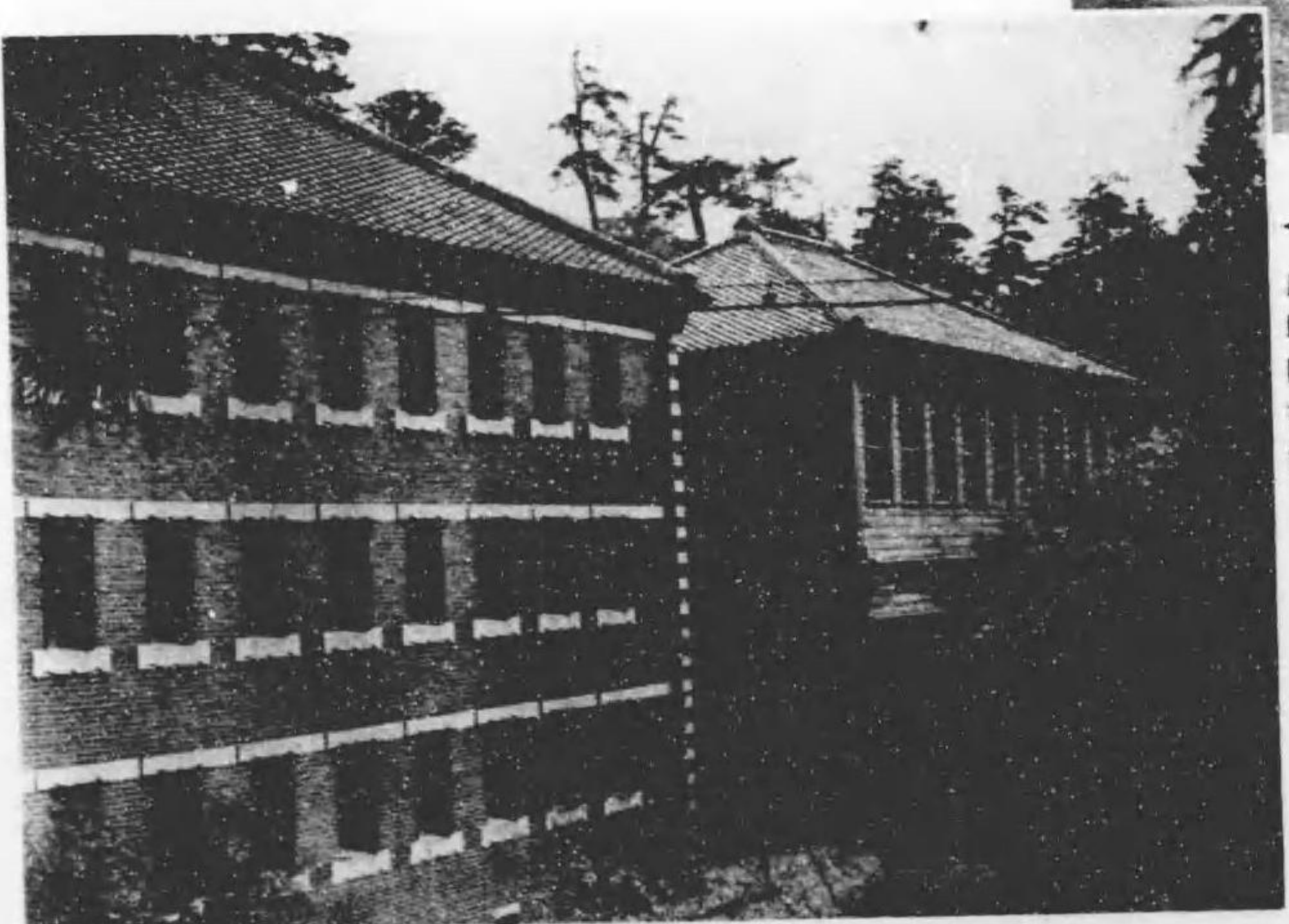
→ 成田幼稚園

明治三十八年五月日露戦役記念として  
生れ、同三十九年六月新築成る。地域  
高興園地、總敷地約三千二百坪を擁し  
全國出色の名園として知られ、修了兒  
三十二回、約千二百名を出す  
職員八名、現在園兒約百三十名



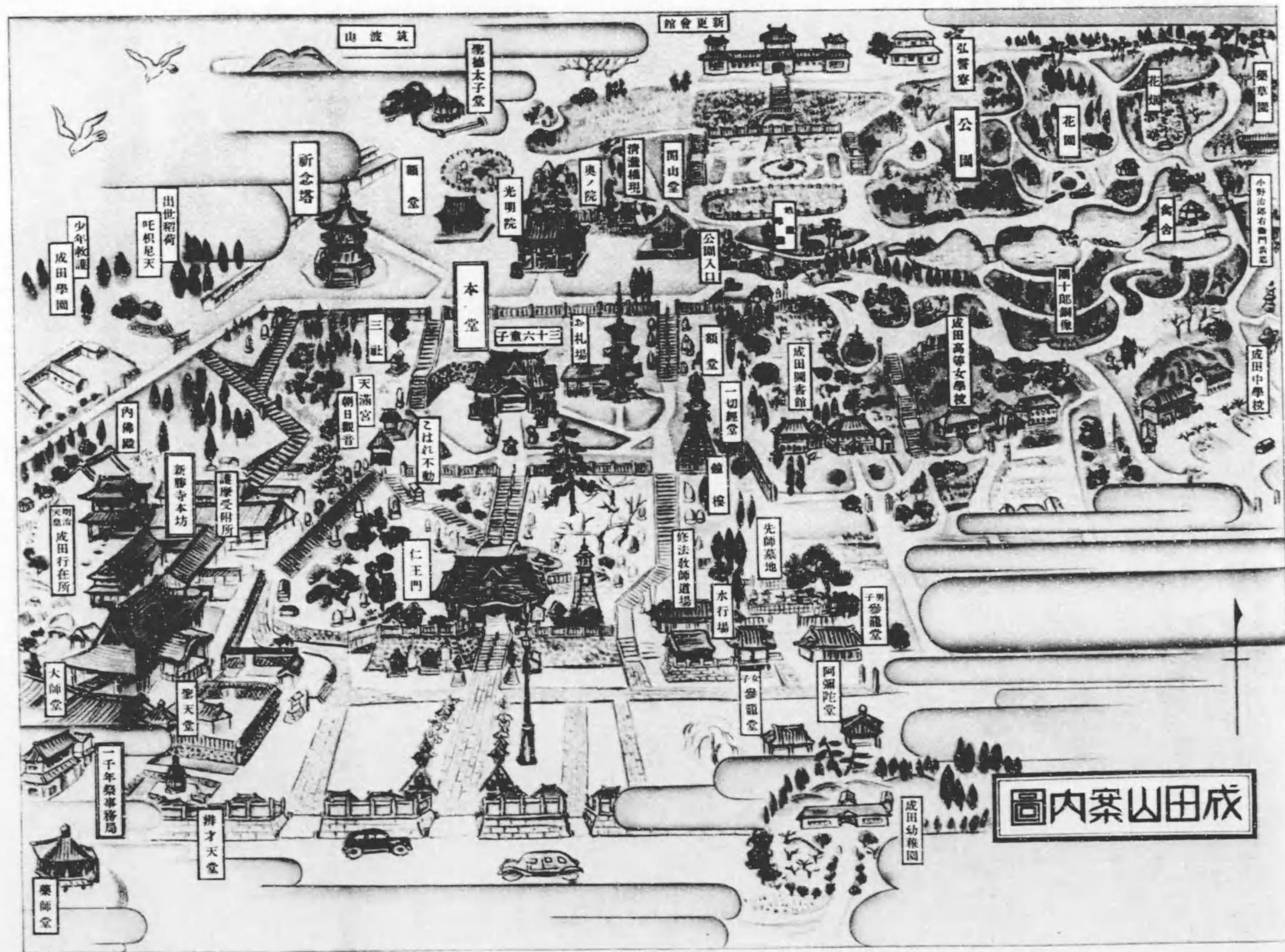
→ 成田學園

少年救護事業にして、明治十九年十一  
月千葉市に創設せられしを同廿一年當  
山經營となるや、同四十一年三月、現  
在舎屋を新築す  
開園以來二百四十四名の少年を養育、  
又調育の傍ら印刷術を課し、現在廿五  
名を收容す



← 成田圖書館

明治三十四年一月前石川賞首歐米より  
の歸朝記念に創立し、爾來書庫の新築、  
目錄の整備等成り、現在蔵書十一萬餘  
冊、百般の文獻を蒐蔵すと雖も就中佛  
典に稀觀珍籍多く、閲覧人員一日二百  
名を算し全國有数の地位を占む。



世五十第興中  
正僧大勤照川石



世四十第興中  
正僧大鳳照池三



世三十第興中  
正僧大輪照口原



董現世八十第興中  
正僧大權定照木荒



世七十第興中  
正僧中誓照田池



世六十第興中  
正僧中和照部服

正誤表

頁	誤	正
一二	一切經輪轉藏	一切經輪轉藏
一八	昭和十年文部省	昭和八年文部大臣
二〇	同	同
三二	荒木照定權大僧正	荒木照定大僧正
案內圖	光明院	光明堂
同	辨才天堂	辨才天堂

昭和十三年三月二十九日印刷  
昭和十三年四月五日發行  
〔成田山餘光〕

千葉縣印旛郡成田町一番地

成田山新勝寺

編纂者 小嶋照本

發行者 東京市本郷區金助町四十五番地

大塚巧藝社

印刷者 大塚稔

千葉縣印旛郡成田町一番地

成田山 一千年祭事務局

開基

不許  
複製

發行所

終

